

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2024年度) 評価結果報告書

2024年12月5日

社会福祉法人あかね保育の会
あかね保育園
御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構
認証評価機関番号 機構 03 - 081
電話番号 03-6279-0331
代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	☒ 福祉	☐ 経営
	②	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	③	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営
	④	H1001023	☒ 福祉	☐ 経営
	⑤		☐ 福祉	☐ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	あかね保育園			
事業所連絡先	〒	181-0013		
	所在地	東京都三鷹市下連雀7-6-18		
	TEL	0422-49-2671		
事業所代表者氏名	佐藤 妙子			
契約日	2024 年	6 月	1 日	
利用者調査票配布日(実施日)	2024 年	7 月	8 日	
利用者調査結果報告日	2024 年	8 月	31 日	
自己評価の調査票配布日	2024 年	7 月	8 日	
自己評価結果報告日	2024 年	8 月	31 日	
訪問調査日	2024 年	9 月	6 日	
評価合議日	2024 年	9 月	6 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面・ポスターの配信または配付・掲示等により保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と提出促進を兼ねたチラシを全対象者に配信または配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所には開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・だれでもいつでもはいる保育園をめざす（障がいのある子ども、外国の子ども） ・地域に根ざし、地域に開放された保育園（地域の中で育つ子 地域への貢献） ・子どもの24時間をつなげましょう（子どもの最善の利益をめざした保育園） ・職員一人一人が保育園経営に参加する保育園（職員の意志を反映する）
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 子どもの育ちに関わる大人の役割を理解し、自分の思いを持ち人に伝えようとする人と、人の思いをわかろうとする姿勢のある人。感性豊かな人。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 自分が成長しようとする姿勢を持つ大人が、子どもの環境として存在することの重要性を大切にする。自分の考えを持ち、自立した大人として仕事に取り組む基本的な姿勢。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯56(在籍児童数60)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

60
56
56
43
76.8

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」62.8%・「満足」32.6%の計95.4%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「保護者との信頼関係」「職員の対応・身だしなみ」など、全17問中16問で80%台～100%の高い支持を得ている。

自由意見では「施設全体が清潔に整えられて過ごしやすく、先生たちはどなたも温かく穏やかで笑顔が多く、保育に向きに取り組んでくれている」「まぜっこ保育、地域での四季折々の楽しい経験、子どもを本当に大切にもらっていることやおいしい給食、絵本の貸し出しがよく、先生方の仲がいいことも素晴らしい」「職員の方々の人柄や、伝統的な保育園としてのよさも守りつつ、おむつのサブスクなど新しいものも採り入れている点、旬の食材をふんだんに採り入れ、昔ながらのおやつも出る献立がよい」「保育士の方々がしっかり子どもたちを見てくれている実感があがり、低年齢でも折り紙やお絵描きなど多く行ってくれ、行事も多彩で素敵だ」「子どもをよく見てくれ、最大限の配慮や工夫をしてくれる」などの声が寄せられている。

要望等として複数見られたのは、保護者の就労・負担への配慮、保育や職員の働く環境に関することなどである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	42	1	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっている。 自由意見は9件で、「多種多様な活動をしてくれ感謝している」「先生やお友達との関わりの中で遊びや社会性を学び、のびのび過ごさせてもらっており、子ども自身が毎日保育園行く！と言って楽しそうである」「先生方の子どものとの接し方、運営体制、設備もよいと思う」「子どもに寄り添った考えが根底にあると感じる」などの声が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	41	2	0	0
「はい」が95.3%、「どちらともいえない」が4.7%となっている。 自由意見は7件で、「クッキングでお味噌を作ったり、うどんを作ったり、なかなか家ではできないこともあり、とても興味をもって取り組んで楽しみにしていて、また給食のお手伝いで野菜の皮むきもよい経験で子どもは楽しみにしており、自信にもつながっている」「年齢、月齢に合わせてくれていると思う」「園で実施される活動には興味を持って楽しめるものが多いと思う」などのほか、活動内容等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	40	3	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%となっている。 自由意見は15件で、「食事、おやつはおいしいと喜んでいて、毎日の献立を聞かれ、季節の果物を提供してくれるのもよいと思っている」「栄養バランスはもとより、季節の旬の食材を多く使ってくれており、非常に満足している」「毎日だしをとってくれており、いい匂いがして、食育にもつながっていると思う」「病み上がりなど体調も考慮してくれ、安心して任せられる」などのほか、メニュー・食材などについて、さらなる工夫を望む声が見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	38	5	0	0
「はい」が88.4%、「どちらともいえない」が11.6%となっている。 自由意見は13件で、「園庭はないが、散歩に連れて行ってくれたり、ご近所の畑で収穫させてもらったりと、思っていたより活動が多く、活動について子どもへ丁寧に説明してくれているので、子どもも楽しみにしている」「園庭がない分、お散歩や公園遊びが積極的に採り入れられていると思う」「7月頭に開催されるあかねまつりは毎回凝っていて、保護者も楽しませてもらっている」などのほか、社会との関わりや戸外活動等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	29	10	1	3
「はい」が72.5%、「どちらともいえない」が25.0%、「いいえ」が2.5%となっている。 自由意見は7件で、「とても柔軟に対応してくれ、保護者のことも気にかけてくれて、いつも助かっている」「お迎えについてうるさく言われないので、ありがたい」「私も子どもと過ごす時間を大切にしたいと考えているので、本当に必要な時だけ利用している」などのほか、利用のしやすさや受付時の対応・接遇などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	36	5	1	1
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が11.9%、「いいえ」が2.4%となっており、「はい」の値には前回(2021年度・以下同、74.4%)から改善傾向が見られる。 自由意見は6件で、「基本的に危険とを感じる場面は一切なかった」「園舎は新しく遊具も清潔感があり、よく子どものことを見てくれるので、安心して預けることができている」「先生方が工夫して見守ってくれており、安心して任せている」のほか、保育中の安全管理、設備面、虫刺され対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	42	1	0	0
「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっており、「はい」の値は前回(86.8%)からさらに向上している。 自由意見は4件で、「土曜日に実施してもらっているので、参加しやすく助かる」「年間行事で事前に知らせてもらっているのがありがたい」「あかねまつりは土曜日など、とても配慮を感じる」などのほか、行事の日程の設定について、さらなる検討を望むが見られる。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	42	1	0	0
「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっており、「はい」の値は前回(81.8%)からさらに向上している。 自由意見は10件で、「帰りに必ず声をかけてくれるので相談しやすい雰囲気があり、第一子のため本当にいろいろな場面で助けてもらっている」「どの先生も明るく優しい方ばかりなので、相談しやすい環境だと感じる」「適宜面談を行って、園での様子をいいこと悪いこと含め、きちんと伝えてもらえていると感じる」などのほか、職員の対応やコミュニケーションの充実について、さらなる配慮を望む声が寄せられる。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	42	1	0	0
「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっている。 自由意見には「季節に合った飾りや、掃除をよくしていると思う」「できたばかりの園舎で清潔で、木の温もりやお日様の温もりを感じられて、居心地のいい空間だと思う」「いつもきれいに清掃してありがたい」の3件が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	43	0	0	0
有効回答者43人全員(100%)が「はい」と答えており、「はい」の値は前回(88.6%)からさらに向上している。 自由意見は6件で、「職員皆さん明るくネガティブな雰囲気が一切ないので、とても気に入っている」「いつも朗らかに接してくれるので安心感がある」「ジャージであったり、いかにも保育園の先生という服装ではなく、皆さん家庭のお母さんやお姉さんのような自然な服装をしていて好感をもっている」などのほか、説明・報告などの職員の対応について、さらなる配慮を望む声があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	37	5	1	0
「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が11.6%、「いいえ」が2.3%となっている。 自由意見は7件で、「発熱の時も別室で看病してくれてありがたい」「熱がなくても気になる様子があれば連絡をもらえ、実際にあまりお昼寝をしていない日やご飯を食べなかった日は夕方発熱することが多く、連絡をもらえて助かっている」「職員の皆さんは園児一人ひとりに気を配ってくれているように感じる」などのほか、ケガや体調変化等の把握・対応、保護者への連絡について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	34	7	0	2
「はい」が82.9%、「どちらともいえない」が17.1%となっている。 自由意見は8件で、「子ども同士で会話をさせ、ある程度見守ることをしてくれ、とてもよいと思う」「子どもがお友達に対して手を出してしまふこともあるので、様子を知らせてもらえるのはありがたく、子どもが落ち着いた頃にしっかり話をしてもらえていると思う」「逐一報告してくれている」などのほか、子ども同士のトラブル等の把握やトラブル発生時の保護者への報告・説明について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	40	3	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%となっている。 自由意見は5件で、「とても寄り添ってくれている感じがして安心できる」「いつも子どもの話を真摯に聞いてくれる様子を見たり、子どもが話したことを覚えていてくれたり、お友達とぶつかった時も話を聞いてくれる」「いけないことをした時も、子どもの気持ちを尊重しつつだめなことをはっきり伝えてくれるので、子どもも萎縮せずにお友達との関係を学ぶことができています」のほか、保育者の子ども一人ひとりへの関わりや目配りについて、さらなる配慮を望む声があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	39	4	0	0
「はい」が90.7%、「どちらともいえない」が9.3%となっている。 自由意見には「守ってもらえるんじゃないかと思っている(そう思ったことが思いつかず、漏らされた！ みたいな経験もないので)」 「プールはやや外から見えやすい気がするが、目隠しをするなどしっかり対策してくれている」の2件が寄せられている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	39	4	0	0
「はい」が90.7%、「どちらともいえない」が9.3%となっている。 自由意見は5件で、「文書も直接説明を受ける際も、とてもわかりやすかった」「何かあった時だけでなく、日々の様子を定期的に知らせてくれていて、写真からだけではわからないような子ども同士のやり取りや様子がわかり安心し、たくさんのお子さんを見ながらやってくれていると思うと、本当に頭が下がる」のほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	37	6	0	0
「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が14.0%となっており、「はい」の値は前回(72.5%)から改善されている。 自由意見は5件で、「保育園のご飯があまりにおいしくて、レシピをもらえないかお願いしたところ、子どもが好きなレシピや使っている調味料等を教えてくれた」「不安に思っていたことを伝えたら、後日回答がもらえ、信頼している」「真摯に聞いて、すぐに対応してくれていると思う」などの声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	33	6	1	3
「はい」が82.5%、「どちらともいえない」が15.0%、「いいえ」が2.5%となっており、「はい」の値は前回(69.7%)から改善されている。 自由意見には「入園説明会で説明があった」「全員きちんと説明を受けている」の2件があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリー1の講評		
	保育や子どもの育ちに寄せる園・法人の思いを、さまざまな形で保護者に伝えている 「子どもの24時間をつなげる」こと、「共に育ちあう」ことなど、園に集う子どもたちの「人生の根っこ」を、保護者や地域とも手を携えながら培ってゆくことを園と法人の使命として、目指す子どもの育ちの姿を伝える5つの保育目標を定めている。ホームページではこれらの思いや園の保育の特色・方針を、保護者や地域・社会に象徴的かつわかりやすく発信し、保護者には見学・入園時の説明のほか、懇談会や園だより「ほおずき」、法人だより「あかね通信」でも、日々の保育実践や園の近況の紹介などを通じて伝え、共通理解を深めるべく取り組んでいる。 園と法人の存在意義を再定義し、職員が主体的に運営に関わる組織づくりを目指している 上述の園・法人の目指すものは、職員には入職時の初期教育や年度当初の職員会議などの際に周知が図られている。園の運営は全職員の参画のもとで行うことを旨とし、事業計画の立案や職員の採用・配置、処遇面など、運営の根幹となる事柄も話し合いのもとで検討・決定しており、大切にすることの主体的な育ちの基盤として、職員もそれぞれに主体性を発揮できる組織づくりを目指している。また法人創立50周年を前に、法人の存在意義に立ち返り、掲げる理念を再定義するとともに、その運営や実務とのつながりを改めて確認する取組にも着手している。 職員主体の意思決定と、必要な事柄を組織内及び保護者に周知させる仕組みを整えている 職員参画のもとでの園運営の推進力として、常勤者が集う職員会議と、園長・主任と職員による運営委員会、各リーダーと看護師・栄養士が話し合うリーダー会議を設けるほか、理事長・園長及び主任による「三者会議」も別途行われている。日常の意思決定は案件の内容や緊急性に応じ、これらの会議で行い、それぞれの議事録の確認や出席者からの伝達により、必要な情報を組織全体に周知させる仕組みとしている。保護者への各種の重要事項の伝達は、主にアプリでの配信によって行っており、必要に応じて書面や個別の対話でも伝え、確実な周知を図っている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1 (2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリ-2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目2

着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-2の講評

年度と中・長期の各期間で、運営や課題解決等に関する計画が作成されている

法人・園としての年度の事業計画に、行政の関連政策・制度の動向や園・法人の概況を踏まえた、運営・保育の方針と重点課題のほか、保育全般及び職員の育成・処遇、保護者・地域支援や施設・設備管理、防災などに関する年間の取組の概要を定めている。また今年度を含む10か年の計画が別途立案されており、法人運営や地域支援、保育及び業務の見直し、職員育成など、園と法人の経営に関する各年度の重点課題を、「進捗表」として一覧化している。各計画の立案にあたっては、いわゆるSWOT分析などの現状把握と課題の明確化にも取り組んでいる。

保護者や職員の声を多様な方法で把握し、園の運営や保育・行事などに反映させている

運営や保育などに対する保護者全体の意向は、懇談会での対話や行事後などに行うアンケート、父母会主催の「あかねを考える会」との協働などを通じて把握している。同会との取組として、園生活や行事などの各項目に関する要望等を募るアンケートも実施され、寄せられたさまざまな声をもとに実施可能な改善を検討するほか、園の回答の発信を通じて相互理解が深まるようにしている。職員の意向は前述の各会議や個別の面談、日常の業務内外の会話などから把握し、運営委員会・リーダー会議や職員会議で検討し、運営全般に反映させる仕組みとしている。

事業環境の動向に関する種々の情報収集を行い、計画立案や運営の参考としている

地域の子育てや保育・教育等の状況は、入園前見学や子育て支援等で来園する地域の家庭から、会話やアンケートを通じて把握している。また関連する行政の政策・制度等の動向などの情報を、市の私立保育所園長会や自治体・関連団体の各種発信物などから把握している。これらの情報は上記の保護者や職員の声とともに、運営や計画立案の参考とされ、内容に応じて職員にも周知されている。園の次代への継承に向け、経営層の世代交代が始まっており、中・長期計画や事業計画について、定性・定量両面の目標とともに、改めて検討することも期待される。

3 経営における社会的責任			
カテゴリ-3			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-3の講評

子ども一人ひとりへの寄り添いをはじめ、組織としての啓発が折に触れてなされている

職員は入職時のオリエンテーションを通じ、就業規則や「保育者の行動基準」、個人情報保護規程などをもとに、必要な規範を確認しており、各種マナーや服装・身だしなみ、日常の勤怠ルール等の社会人としての見識のほか、子どもの人権の尊重や守秘義務をはじめ、保育者に求められる倫理の徹底が促されている。また一人ひとりの子どもに等しく心を寄せ、特性や心情を尊重して関わる姿勢を、日々の会議等での話し合いの中で確認するほか、所定のチェックリストをもとに、人権擁護の観点から日々の言動を各人が振り返る機会も毎年度設けている。

園と家庭での子どもの虐待等の防止や、保護者の意向への誠実な対応に努めている

上述の子どもへの言動に関する振り返りでは、各人の内省を経て、話し合いを通じて認識の共有を図り、子どもの人権や尊厳に配慮した関わり方の徹底につなげている。また家庭での虐待等を防ぐため、疑いや事案が生じた際の通報・連携先機関を定めるとともに、早期発見や発見後の対応の参考として、市作成のマニュアル等を常備している。保護者の権利保護の仕組みとして、苦情解決制度を整備し、掲示や入園時の説明、園便りへの記載などによって周知を図るとともに、日々のコミュニケーションや面談からも意向を把握し、内容に応じ誠実な対応を図っている。

地域への情報発信と多様な貢献・連携を通じ、社会資源としての役割の発揮に努めている

ホームページや法人の便り「あかね通信」を通じ、園・法人の各種情報を発信するとともに、三鷹市の各種媒体でも園の基本情報が提供されている。また市の私立園長会や保・幼・小の連絡会を通じ、保育・教育関係者間の連携にも加わるほか、実習生や各種ボランティア・職場体験生の受け入れも積極的に行い、対応の指針を定めた手引書も常備している。社会資源としての地域貢献も園の役割として重視し、旧園舎を活用した「あおいとり」と現園舎1階の「ひだまり」を拠点に、別掲の多様な子育て支援を行い、地域の親子の体験と交流の場を提供している。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
各種の事故を防ぐために、事例の検証や共有に取り組み、安全の向上に努めている 保育提供において、子ども一人ひとりが主体性を培い、発揮できる環境・活動の提供を大切にする中で、安全面でも事故や感染症から子どもたちを守りつつ、子どもが経験から自ら得る学びにも配慮することを方針としている。保育中の園内外でのケガをはじめ、各種の事故の発生時には遅滞なく詳細の確認やクラス・組織内での共有を行うとともに、原因や防止対策の検討や看護師の年間集計から把握された傾向を、予防や再発防止に活かしている。また各クラスで、「気づきシート」によるヒヤリハットの把握と共有を行い、日々の危険の予測・察知に努めている。 感染症や災害・不審者など、子どもの安全・健康を脅かすリスクへの対策を行っている 所定の手順・周期に基づく清掃や各所及び玩具等の消毒、嘔吐等の発生時の対応に関する訓練など、感染症の要望に努めている。また毎月の防災訓練では、早朝・延長を含む1日の主な各時間帯の地震・火災の発生を想定し、職員や子どもの行動や保護者との連携を確認している。BCP(事業継続計画)も作成しており、感染症に関する同種の計画の整備も期待される。子どもの睡眠時の状態確認や救命救急訓練の実施など、SIDS対策にも努めるほか、不審者侵入を想定した訓練も毎年度設けている。園外活動中の不審者対策についても、検討を期待したい。 情報の適切な取り扱いと漏洩の防止に関する、仕組みや環境の整備がなされている 個人情報の取り扱いに関する各種原則を、関連する法人の諸規程や就業規則に定め、職員には入職時に適切な情報管理と漏洩防止の徹底、実習生等には活動開始前に守秘義務の厳守を求めている。また各種書類の機密性に応じた施錠管理、電子データの職位等に応じたアクセス制限や、端末機器類のパスワード等によるログイン制限など、ハード面でも情報漏洩の防止に配慮している。保護者には入園時に、子どもの肖像の利用などに関する説明と同意確認を行っており、子ども・家庭の情報が記載される各帳票には、情報の利用目的が付記されている。		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価

標準項目

●あり ○なし

1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している

○非該当

●あり ○なし

2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に
活かす仕組みを設けている

○非該当

●あり ○なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

○非該当

カテゴリ5の講評

必要な人材の確保と、組織の総意のもとでの配置の決定のための仕組みを整えている

職員の募集・採用は、各種養成機関との連携による実習生の受け入れや求人情報の発信のほか、採用関連の各種媒体や園のホームページに設けた採用情報のページなどを通じて行っている。ホームページには待遇に関する諸情報を掲載するほか、職員の声を通じて園の大切にしているものや、当園で働く中でのやりがいなどを伝えている。園内における職員の配置は、各人の経験・適性や期待される役割・成長、それらのチームとしてのバランス等を考慮して運営委員会で検討し、職員会議で組織の総意をまとめ、決定する仕組みとし、適切な人材構成の実現を図っている。

職員の段階的な成長の指針のもとで、研修受講の支援や緩やかな目標管理を行っている

「キャリアパスの考え方」に、能力の獲得や役割の発揮、望まれる研鑽に関する、初任者から主任・園長までの各段階における指標と、保育目標に定める5つの子ども像を「大人」としての成長にも関連させ、それぞれにおいて望まれる専門性や能力・態度を定めている。各職員の育成もこれらを念頭に進められ、年間複数回設ける経営層との面談の中で、年度の成長目標や研修受講の希望などの共有と、年度後半のそれらの達成状況の振り返りを行っている。また「職員研修計画」に各人の研修受講予定を一覧化し、派遣・履修による専門性向上を促している。

人が働き育つ場としての環境や仕組みをさまざまに整備し、組織の活力向上に努めている

上記のほか、新人向けのOJT用のチェックリスト、三者会議などでの育成面の話し合いなど、若手・後輩育成の仕組みを整えている。また上記の経営層との面談では、各職員の意向や心身の状況などの把握もなされ、必要な配慮や看護師によるケアなどに活かされている。行政の処遇改善制度の活用や各種福利厚生、日々の各種会議での保育・業務全般に関する気づき・知見の共有、懇親の機会の設定など、職員の意欲と組織の活力の促進にも努め、今般の職員自己評価も踏まえ、働く環境や組織の心理的安全性のさらなる向上にも努める意向である。

カテゴリ7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリ1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画では、現園舎への移転にあたって行われた年齢別のプロジェクトチームでの検討をもとに、食事・睡眠及び日々の活動を、年齢ごとの基本的な考え方を踏まえて実践に反映させることを、重点課題の一つとした。現在の子どもたちの姿と実践の内容をもとに、昼食の時間や配膳方法、午睡の考え方や、0・1歳児の保育における軸としている、子どもに関わる保育者を緩やかに固定する担当制など、子ども一人ひとりの発達援助の質をより高めるための検討に取り組んだ。

クラス会議・リーダー会議等での保育と子どもに関する情報共有・検討に加え、年度後半には「基本モデル会議」として、睡眠・食事における、科学的な知見や日々把握される在園世帯の生活状況等も踏まえた所要時間等の検討、それらを含む1日の生活の流れに関する話し合いを行った。

また行事に関しても、コロナ期間中に自粛していた、春の遠足や「つぼみの会」「あかねまつり」「親子であそぼう会」などについて、新型コロナウイルスの感染症としての取り扱いの緩和を受け、「行事検討会議」を設けて再開の可否の検討やねらい・内容の再確認を行った。

目標の設定と
取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

基本モデル会議等での検討を受け、食事については年齢によらず、クラスごとの子どもたちの生活リズムや食事の状況を踏まえ、柔軟な援助や環境の設定を行うこととした。また、それらのための朝の職員配置に関しても検討を行っている。睡眠についても、家庭での状況や登園時間、午睡の習慣の有無、入眠に関する特性等の個人差などを考慮し、毎日の生活での食事から睡眠への移行、眠る場としての快適性を考慮した環境設定や、1日の生活における全体的な睡眠時間などを踏まえた個別の援助などについて検討を重ね、一人ひとりに適した生活リズムの保障につなげている。

行事についても、それぞれの行事で意図する子どもたちの経験・成長など、実施のねらいを再確認しながら、開催の時期や方法を検討し、「親子であそぼう会」は近年続いている夏の猛暑を考慮し、暑さが落ち着く11月初旬の開催に変更するなど、行事ごとに見直しを図っている。

一連の検討の成果は今年度の保育実践や行事予定に反映されており、引き続き子どもの育ちの実態に根差した検討を続けてゆく意向である。年度の後半には保育活動のさらなる展開を目指し、0・1歳児と2歳以上児の各プロジェクトの再開を検討している。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画では、「運営管理の改善」の一つとして、かねて取り組んできたノンコンタクトタイム(職員が現場を離れ、事務業務等に専念できる時間)の確保と、そのための業務の合理化・省力化も重点課題に挙げ、一昨年度から設けている「ノンコンタクトタイム会議」を中心として検討を進めた。

ノンコンタクトタイムの確保については、毎月の体制表にあらかじめ設定するなど、取組を進めてきたが、日々の保育提供に加え、子どもや保護者への個別対応、新入職者への指導とフォローアップなど、付帯する業務も少なくないことから、計画通りの実施が難しい状況が続いていた。

また、経営層の世代交代を視野に、引き継ぎの準備と具体的なスケジュール作成にも取り組むこととして、当時の園長・主任に加え、職員も交えて運営委員会で話し合いを進めた。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

ノンコンタクトタイムの確保に向けて、現場の実状を把握するため、事務業務に要している時間や、昨年度から申請制とした時間外勤務の状況について、職員にアンケートを行っている。その結果も参考として、業務や配置の見直しに関する検討を継続し、現場の負担軽減を図った。

また園長・主任の交代については、実施に向けて準備を進め、今年度の着任と安定的な組織運営の継続につなげている。

職員自己評価では、書類業務をはじめとする負担の軽減を望む声がさまざまに上げられており、ノンコンタクトタイムの確保は引き続き課題となっている。数年前からのタイムカードによる労働時間管理も定着し、時間帯ごとの必要な職員配置の実施や超過勤務の内容の例示など、保育の質の維持と適正な労働時間配分の両立を図るための工夫にも取り組んでいるが、引き続き業務内容の整理と明確化など、検討を進めるとともに、働き方等に関する現場との認識の共有も深めてゆく意向である。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
ホームページでは、園の思いや特色、施設内の雰囲気等がわかるよう工夫している 園のホームページでは、保育時間や所在地、職員構成等の園の概要に加え、「温かさの中で人生の根っこが育つように」という願いとともに、「まぜっこ保育」「毎日元気に外遊び」「共に育ちあいましょう」などの5つの保育の特色について、象徴的な写真を添えて紹介している。また食事のこだわりや健康管理、一日の流れ・年間行事・保護者との連携など、園での生活のイメージがしやすいような情報を掲載している。ホームページの作成にあたっては、子どもも保護者も安心できる場所であることを伝えるため、柔らかい色合いや言葉遣いが意識されている。 園見学を通じて園が目指す保育実践に関する説明をしている 見学会は通常9月の土曜日に行い、保護者の状況によって見学会への参加が難しい場合には、子育て広場への参加や、保護者の都合に応じた柔軟な対応に努めている。見学の際には環境構成の工夫や緩やかな担当制、幼児クラスの異年齢保育を採り入れていることを説明しており、その保育による成長の姿を、具体的な子どもたちのエピソードを添えて伝えている。また子どもが主体的に生活し、遊ぶことを通じて、さまざまな所作や知恵、人との関わり方を身につけ、学ぶことの楽しさを味わえるような保育実践を目指していることも説明している。 子育て支援事業の参加者に園の雰囲気を伝え、行政等を通じて園の情報が発信されている 地域の子育て支援世帯を対象として、園の子どもと一緒に過ごす保育所体験や、出産前後の保護者への講座のほか、素話やわらべうた、制作を楽しむ地域講座など、さまざまな取組を行っており、園や職員の雰囲気を伝える機会にもなっている。三鷹市のホームページには園のホームページへのリンクが設定されているほか、子育て支援事業の対象年齢と定員、開催日なども掲載されており、市の担当課窓口には、園のパンフレットを置かせてもらっている。また市内の一般社団法人のホームページにも、園の空き状況や子育て支援事業の情報が掲載されている。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入園時に重要事項を説明し、利用終了後の関係継続に取り組んでいる 利用にあたっての重要事項や園生活での留意点などについては、「入園のしおり」をもとに、園長・保育士・看護師・栄養士がそれぞれの項目に沿って説明し、不明点の有無を確認したうえで、利用開始の同意としている。また子どもの写真等の肖像の利用など、園内での個人情報利用目的を説明し、書面にその同意確認を行っている。卒園・退園等の利用終了後には「あかね通信」を発送しており、発送後卒園児から応答があるほか、卒園保護者が芋掘りや力仕事を手伝いに来てくれるなど、利用終了後の保護者との関係が継続している。 個別面談を実施して子どもと家庭の状況を確認し、職員間で情報を共有している 入園が内定した保護者には、児童票や食事アンケート、保健個人記録など、保育開始に必要な各種書類を保護者に送付し、必要事項を記入のうえ、面談の際に持参してもらっている。個人面談当日には、次年度担任となる保育者が、保護者が記入した各書類の内容を見ながら聴き取りを行い、食事面や保健面に配慮を必要とする場合には、専門職による聴き取りも実施し、入園後の確実な援助につなげている。面談後には、各職員が把握している情報を会議等の場で報告・共有している。 入園直後の子どもと保護者の不安の軽減に努めている 入園直後の子どもと保護者の不安と負担を軽減できるよう、保育時間を徐々に延ばしながら、体験を増やしてゆく「慣れ保育」を実施している。実施にあたり、個別面談において、保護者の状況や意向を確かめて日程を決め、家庭での生活リズムを踏まえて、子どもと保護者に無理のないよう、柔軟に時間や期間を変更している。また入園直後は持ち物や園のルールに迷うこともあることを考慮し、送迎時の対話では、良好なコミュニケーションを図りつつ、不明点や疑問がないか聴き取り、丁寧な説明を行うよう努めている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	☐ 非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもや家庭の情報を児童票として保管するとともに、随時更新を行っている

入園までの子どもの生育歴及び保護者の情報は、児童票として個別に保管している。入園面談時にはこれらに基づき、生活全般について聴取している。「園児健康個人票」には予防接種の状況や既往歴などの保健に関する情報を記載し、必要であれば随時及び年度末に保護者に確認して、追記を依頼している。また入園後も定期的に個人面談を行い、その時々園での子どもの様子を伝えるとともに、家庭での過ごし方や育児をするうえでの悩みごとなどを具体的に聴き取り、適宜アドバイスを行うことで、育児の楽しさをともに共有できるようにしている。

年間を通した園のテーマを具体的に日々の保育につなげる計画を策定している

年間保育計画は年を4期に分けた園のテーマとして「友だちになろう・真っ黒になろう・跳ぼう走ろう・子どもは風の子」を掲げ、これらを共通認識として、具体的な案を月案として策定している。毎月、一人ひとりの子どもの様子を把握して翌月のねらいを策定することで、子どもの育ちを丁寧を支えられるようにしている。異年齢2グループで編成をして一日を過ごす3歳以上児では、年間計画には学年齢・異年齢での保育目標を掲げ、それぞれの成長段階に応じた計画を策定して、具体的な活動や取組を明確にしている。

各種会議を活用し、子どもの様子や日々の保育に必要な情報の共有化がなされている

クラス会議では個々の子どもの様子を共有し合い、翌月の支援内容や環境・個別配慮について検討している。そのほかにリーダー会議・職員会議では各乳児・幼児、園全体について報告・相談・共有する機会としている。参加しない職員には作成した議事録にて内容が確認できるようになっている。日々の子どもの情報は、アプリ連絡帳にて全職員が確認するとともに、園で過ごした内容についても連絡帳で保護者に伝える仕組みを整えている。園だより・保健だよりは毎月発行し、クラスだよりは2～3か月ごとに保護者に発信して、子どもの様子を伝えている。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
子どもの個人情報やプライバシーを保護し、自尊心への配慮に努めている 子どもの写真等の肖像の利用など、園内での個人情報の利用目的を説明し、書面にてその同意確認を行っており、子どもの情報を外部に提供する場合には、そのつど保護者に確認をとることとなっている。幼児クラスのトイレには個室を設置するほか、排せつの失敗の際には、その子の心情や気持ちに寄り添い、さりげなく、素早く対応し、他から見えない場所で援助するよう心がけている。また夏の水遊びなどの際には、周囲からの視線を遮る工夫を、シートなどを活用して行うなど、子どものプライバシーや、発達に応じた自尊心の尊重への配慮に努めている。 子どもの特性や保護者の文化的・宗教的な背景への対応に努めている 入園時には子どもの食物アレルギーや慢性疾患等の体質、発達の特性のほか、保護者の育児に対する考え方や文化的・宗教的な背景などの情報を、各種書類や面談から収集し、職員間で共有している。通園開始後も、日々の対話や個人面談から状況や意向の変化の把握に努め、個々に応じた援助や保護者の価値観を尊重した支援につなげている。日々の保育では、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの意思や選択を尊重することを大切に考えており、保育者は日々の対話やリーダー会議などで、子どもの情報を共有するよう努めている。 人権擁護に関する職員の内省の機会を設け、関係機関との連携体制も整えている 年度当初に人権擁護に関するセルフチェックリストを用いた、職員の内省の機会を設けており、各職員がペアになり、チェックリストの結果や日頃感じていることを話し合い、相談や助言を通じて、保育者による不適切な保育の予防につなげている。また保護者支援や虐待防止に関する研修会が開催された際には、随時職員を派遣し、報告書の閲覧や会議での報告などによって周知を図ることとしている。家庭における育児不安や虐待の早期発見に向けて、職員間での情報共有に努め、行政等の関係機関との連携体制も整えている。		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
手引書類や「入園のしおり」に業務の標準を明示し、職員が確認できるようにしている 保育内容に関する手引書である「保育基本モデル」には、年齢ごとの一日の流れ、特徴的な育ちのほか、おむつ替えやおんぶの仕方、散歩の際の留意点や行事の進め方など、保育実践に必要な手順や考え方、留意点などを掲載している。そのほか、保健や安全管理、食物アレルギー対応など、非常時対応に関する各種マニュアルも用意している。また、行政や各種団体から発せられた各種ガイドライン、「入園のしおり」なども含め、業務の標準が明らかにされており、これらは職員がいつでも確認できるようになっている。 日々の安全な保育に活かすための確認や実技研修の機会を設けている 上記の手引書類を日々の安全な保育に活かせるよう、職員間での話し合いや認識共有の機会を設けている。年度当初に行う「半日会議」では、アレルギー児や消防組織図と役割、防災リュック等の確認を行うほか、不適切な保育の予防に向けて、人権擁護に関するセルフチェックを行っている。職員会議でも行事を振り返り、改善策を検討し、医療的なケアが必要な子どもへの対応や留意点を確認するほか、避難訓練後の振り返りでも必要に応じて手順や経路の確認をしている。また嘔吐処理や救命救急等の実技研修も実施している。 手引書類は制度や公的なガイドラインの変更のほか、必要に応じて改正している 手引書は、行政から発せられる要綱や通知、各種ガイドラインの改正のほか、報道された種々の事例などを踏まえて改正することとなっている。また上記の通り、職員間の話し合いや振り返りの機会がさまざまに設けられ、検討・改善事項があれば、書式や手引書等を改めることとしている。今年度は食物アレルギー児への対応マニュアルの更新に取り組んでおり、重症児と軽症児の対応を分けることによる危険について、保育現場から意見が上げられたことを踏まえ、対応を同一にすることで、安全を確保できるよう改正されている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐非該当
評価項目1の講評	
個々の発達状況の把握の仕組みを整え、子どもの発達に合わせた環境設定に努めている 一人ひとりの発達状況を年齢に応じた頻度で確認をする仕組みを整えており、個別の発達記録に記載をしている。体格的な発達や情緒面において特に気になる様子が見られる場合には、職員間で個別共有を行いリーダー・職員会議で共有をして、子どもの特性に寄り添って支援を行っている。保育の環境も子どもの今の様子を把握して、発達に合わせた玩具や空間配置を行い、子どもの主体性を促している。生活動線にも配慮を行い、子どもが戸惑わないような一日の見通しを立て、生活と遊びを通して安全に安心して日々過ごせるようにしている。 異年齢で過ごす環境や活動内容を策定し子ども同士で育ち合える保育に取り組んでいる 3歳以上児は異年齢2グループ編成をして、一日の生活を過ごしている。1フロアを緩やかに仕切っており、子どもの意思に応じて行き来する姿も見られ、大人が先回りせずに、子どもの活動が発展していけるように見守るなど、子どもの主体性の尊重を保育の軸としている。散歩先での活動や制作も設け、園外保育等の活動内容に応じて年齢別で過ごすこともあり、同年齢同士でのコミュニケーションも構築されている。年度後半は2歳児の進級に向けて、徐々に幼児の中で過ごす時間を設けることで、4月の進級時に安心して移行できる工夫を行っている。 子ども同士のトラブルでは、双方の子どもの思いを受けとめた対応を行っている 場所や玩具の取り合い等で生じる乳児のトラブルは、子どもの様子を見守りつつも、可能な限りかみつきや引っかかり等の行動を防ぐような支援を心がけている。発生した場合は「噛みつき引っ掻きメモ」に詳細を記録して職員の関わりを振り返り、未然防止策を検討している。幼児のトラブルは子ども同士で解決できるような導きをするほかに、代弁が必要な時は、トラブル時の一場面だけで判断することなく、前後の経緯を踏まえたうえで、双方の思いを受けとめ、対応するようにしている。小学校とも学校見学や保・幼・小会議への参加などの連携が図られている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

子どもの様子を保護者と伝え合う登降園時の仕組みを整え、個別の配慮に活かしている

登園時は保護者一人ひとりに声をかけて、体調の変化等を聴き取っている。受け入れ時の子どもの顔色や機嫌等を把握して、変化や気になる様子がある場合は、伝言表に記載をして職員に周知するとともに、各チーム内の職員には口頭でも共有をするようにしている。アプリ連絡帳の内容はすべての職員が確認をする仕組みを整え、特に病気明けの子どもは体温や食欲等の確認を行い、栄養士や看護師とも連携を図るなどの配慮をしている。降園時はアプリ連絡帳で園の活動の様子を伝え、エピソードを踏まえた子どもの様子を口頭でも伝えられるようにしている。

乳児は緩やかな担当制のもとで、安心して意欲を促せるよう身辺自立へと導いている

乳児は関わる保育者を概ね固定する緩やかな担当制のもとで、一人ひとりの特性や発達状況・生活リズムを把握し、食事や着脱・排せつ等の身辺自立に向けて支援している。トイレトレーニングの目安は年度当初の懇談会時の資料に掲載し、保護者に説明するほか、開始時期の目安は子どもの意欲や体格等の発達に合わせ、家庭と連携を図って開始するようにし、排せつに関わる職員は専用のエプロンを着けるなど、衛生面にも配慮している。着替えは靴下や帽子・ズボン等、取り組みやすいものから意欲を誘い、子どものペースに合わせて見守るようにしている。

毎日の生活をともにする異年齢の子どもたちの、学び合える関係性が構築されている

異年齢で過ごしている幼児は、着替えや身支度での戸惑いの姿が見られる年下児に声をかけたり、お手伝いをする年上児の姿が見られるなど、大人から学ぶことよりも、子ども同士で学び合える関係性を構築し、保育者は年上児のさりげない優しさの場面を見守り、尊重するようにしている。午睡は長時間を園で過ごす子どもが身体を休める時間としてとらえており、一人ひとりの生活リズムを把握して個別に促すようにしている。安全に安心して眠れるように採光や静音などの室内環境を整え、年齢に応じて呼吸・状態確認を行い、記録をしている。

3 評価項目3		
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
日々の保育は、子どもが自ら興味を広げ、豊かに遊び込めるような援助を旨としている 夏季期間以外は基本的に戸外散歩を主活動としており、幼児では朝の会で散歩への行き先や散歩先での遊びについて、子どもたちから意見をもとに決めることもある。日々の活動や生活も、子どもたちが主体的に創造してゆくことを大切な方針とし、自ら遊びを組み立てているという納得感から、さらに遊びについて意欲が増し、期待感をふくらませる姿が見られている。乳児の部屋には身体を動かしたり指先遊びや手作り玩具などを揃え、幼児は個々や仲間と遊び込める構成遊びやままごと、制作の素材など、さまざまな玩具や道具を用意している。 応答的なやり取りから子どもの気持ちが安定し、表現する意欲につながられている 乳児期は保育者との信頼関係を築きながら、子どもの行動や思いを保育者が受容し、代弁したりしながら、安心して思いを伝え、言葉を習得していけるよう、応答的な支援に努めている。絵本の読み聞かせやわらべうた、手遊びを楽しみながら、心地よい音の響きや手振り身振りなど、身体で表現する楽しさなどを生活の中に採り入れている。5歳児は「お泊まり会」や園外活動等の単独行事の際には、当日に向けて徐々に話し合いを重ね、自分たちで作り上げる喜びから仲間とともに協力し、それぞれの達成感につなげるなどの機会となり、成長の一助となっている。 個々や仲間との活動を通して、子どもの活動の広がりや社会性も養われている 幼児は小グループで室内清掃や配膳、草木の水やりなどの当番活動があり、仲間とともに役割をこなそうとする責任感や、感謝される喜びなどの体験が積み重ねられている。季節に伴った制作も一斉に行うことはせず、少数の子どもから徐々に興味広がるような取組となっている。日々の散歩の中で自然事象に触れたり、子どもが体感で季節を感じ取れるようにしている。また地域の庭でのミカン狩り、木工ワークショップ、自立支援センターとの交流等、子どもたちがさまざまな体験を通して活動意欲を広げるとともに、社会性も養われている。		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
子どもにとっての行事の意味や大切さを検討し、子ども主体の行事に取り組んでいる 行事開催に向けて、子どもにとっての行事の意味やねらいを職員全体で話し合いながら、取組過程の子どもの様子を共有し、確認しながら進めるようにしている。秋に開催される「親子であそぼう会」は、親子で身体を動かして楽しむ行事としてとらえ、仮装玉入れやしっぽ取り、借り物競走など、参加する親子が同じ空間で楽しさを共有できる内容となっている。5歳児は毎年恒例のキッズソーランに取り組んでおり、子どもたちが手作りで染めた布を鉢巻きにし、揃いの半被を着て、息を合わせ踊る姿などから、成長の喜びを保護者とも共有する機会となっている。 古来から伝承された行事では、子どもたちが春夏秋冬の季節感を体験している 春夏秋冬の季節を感じながら、古来からの伝承行事を制作や歌、食事などからも体験したり、夏ならではの祭りの雰囲気を味わいながら親子で遊べる日を設けている。七夕やお月見や節分など、象徴物の制作に取り組んだり、朝の会では伝承された歌を皆で歌い、行事を意識できるように取り組んでいる。夏祭りでは園全体を祭りの雰囲気が感じられるように飾りつけ、ゲームコーナーや親子制作コーナーなど、創意工夫されたブースを設けている。また地域の三線の会の演奏会や盆踊りなど、季節ならではの催しを楽しめるようにしている。 さまざまな人々と過ごす体験から社会性を広げ、コミュニケーション力も深められている 5歳児は公共交通機関を利用して高尾山へ山登りをしたり、他園の子どもたちと一緒に観劇体験をするなど、活動の楽しみとともに、公共のルールやマナーなどを学べる機会が設けられている。また自立支援センターの人々との交流もあり、補助用具を体験し、街中の道路の段差を改めて意識するなど、子どもなりの視点を保育者と共有して、思考を深めようとする経験が重ねられている。年間の行事は、年度当初の懇談会時に、行事のねらいも含めて保護者に説明を行い、日程とともに理解を求めている。行事後は職員間で評価・反省を行い、次回に活かしている。			

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

長時間を過ごす子どもたちが安心して健康的に過ごせる環境等の配慮が行われている

日々園で過ごす子どもたちにとって、毎日のルーティンを重ねることが安定につながると考え、安心できる環境の中で、子どもが主体的に過ごせるよう、空間設置や興味を抱く玩具、寄り添う保育者の姿勢等に配慮をしている。一人ひとりの子どもの家庭での様子も含め、全体的な把握に努め、疲れや体調の変化が見られる時は、リラックスできる敷物やクッションなどを用意している。主要な時間までは担任が関わるとともに、日々固定をされた延長担当が携わることで、連続した子どもの特性や遊びを把握し、支援につなげられている。

延長時間帯にかかる子どもが安定した気持ちで遊びに夢中になれる工夫に努めている

延長児の日中の様子や保護者への伝達事項は、「伝言表」や口頭で延長担当に引き継いでいる。乳児・幼児の合同保育時には、安全に過ごせるように誤飲につながらない玩具や年齢ごとに読み込める絵本などを用意している。また日中の遊びの続きを希望する子どもの要望を聴いたり、延長用の特別な玩具を揃えるなど、遊びに飽きずに迎えるのを待てるようにするほか、保育者は一緒に遊んだり、見守ったりするなど、子どもの心情に応じた関わりを行っている。煎餅やビスケットなどの補食の提供も行っており、水分補給にも気を配っている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもたちのペースで食を味わい、楽しみながら喫食が進むように工夫をしている

0・1歳児は担当保育者に見守られながら、一人ひとりのペースで食を味わい、手づかみ食べから徐々に食具を使おうとする意欲につなげている。3歳以上児はランチルームでグループごとに食事を摂り、食事前には小グループの5歳児が配膳の手伝いを行っている。乳児は陶磁器、幼児は木製の食器に盛りつけ、温かさが感じられるようにしている。日々の献立は、和食や旬の食材を中心にだしを効かせた薄味で調理し、食欲旺盛な子どもたちのために、おかわり分も用意している。栄養士は喫食中の子どもたちの様子を把握し、味つけや献立内容に反映させている。

アレルギーのある子どもも安全に食を営める仕組みが整えられている

アレルギー児も日々安全に、安心して食を営んでもらうために、マニュアルに基づいた提供を行っている。事前にアレルギー除去食献立表について保護者・担任が確認を行い、提供当日も複数で内容を確認している。食事中は別テーブルを用意して、他児との距離を取り、トレイ・食器も色を分け、アレルギー児専用であることを明示するなど、誤食防止の工夫に努めている。離乳食は入園時に個別面談を行い、咀嚼・発達状況を保護者と確認をして段階を決めており、段階が進む際には、未経験の食材を家庭で試してから提供を開始する仕組みとしている。

食への興味を広げる取組や、作ることが喜びにつながるさまざまな体験の場を設けている

むく・ちぎる・握るなど、乳児から身近な食材に慣れ親しめるようにしており、それらが日々の食事に活かされていることを子どもが感じ、徐々に食欲増進につなげられるようにしている。4歳児は旬の果物でジャムを作ったり、5歳児は調理器具を活用して、苗から育てた野菜を調理し、おいしく食べようとする工程に取り組んでいる。年度末には子どもと相談をしてメニューを決め、部屋をレストラン風にして職員を招待して振る舞うなどの活動も行われ、自分たちで手作りした料理を喜んでもらうことで、食に対する感謝の気持ちを抱ける取組となっている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
子どもが自分の身体や健康に関する意識を育み、知識を伝える保健指導に取り組んでいる 手洗いは歩行が安定する頃から始め、幼児クラスでは看護師が、クッキングや食事の前の手洗いの際に子どもの様子を見守り、問いかけや声かけを行い、子どもが手順を思い起こせるようにしている。歯科衛生士による歯磨き指導が年に2回実施されており、紙芝居やパネルシアターを通じて歯磨きの大切さや虫歯について伝えるほか、家庭で実施に使用する歯ブラシを用いてブラッシングの仕方を知るほか、歯垢の染め出しも行い、汚れが目で見えてわかるようにしている。また水分補給や休息の大切さや、咳エチケットやトイレの使い方などについても伝えている。 自分の身の安全を自分で守るための感覚を養い、知識を伝える安全教育を行っている 自分の身の安全を自分で守るための感覚を養い、知識を伝える安全教育を行っている。室内の歩き方や階段の上り下り、プールや散歩、はさみや調理保育の包丁の利用など、危険を伴う場面では、年齢に応じ理由を伝え、ルールを決め、注意事項を知らせている。避難訓練の際には自分の身を守るための所作や姿勢のほか、必ず職員の話聴き、部屋の真ん中に集まることなどを教えている。危険な場面が見られた場合は、注意を促すだけでなく、問いかけたり、一緒に考える時間を設けたりしている。また困った時には大人に話すことの大切さも伝えている。 嘱託医や家庭との連携を図り、子どもの健康管理に取り組んでいる 看護師は園内を巡回して子どもの様子を観察し、保護者から聴き取った家庭での状況を把握するほか、体温が高めだったり、休み明けや疲れが見られたりする場合などは、頻回に様子を確認し、体調の急変に備えている。嘱託医による定期健診にて、子どもの発育とその推移を把握・記録するほか、地域の感染症等の情報提供や、随時の相談ができる仕組みも整えている。保健便りには、健康管理や流行しやすい感染症、家庭での事故防止などの情報を掲載し、感染症が発生した際には、園内の状況を掲示や配信で伝えるなど、保護者への保健情報の提供に努めている。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		
評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
保護者の子育てや就労の事情に配慮し、利便の向上や負担の軽減に取り組んでいる 入園時には、子どもの特性や体質のほか、保護者の子育てに対する方針や考え方、就労状況等の情報を書類や面談から収集し、その後も日々の対話や連絡帳のやり取り、個人面談を通じて、保護者の事情の把握に努めている。各職員が把握した情報は、必要に応じて会議等で共有を図り、園として可能な個別的な保護者支援につなげている。急な残業等での延長保育の利用も、できる限り柔軟に受け入れるほか、アプリ連絡帳を活用した各種の便りの配信、おむつのサブスクリプションの導入など、保護者の利便向上に取り組んでいる。 クラス懇談会や保育参加を通じて、子どもの成長や園の保育を保護者に伝えている クラス懇談会では、子どもたちの生活と遊びの様子のほか、年間の保育計画や行事予定、お願いしたいことなどを伝え、給食・保健分野の保護者に伝達すべき事項については、事前に資料を作成して配付し、当日までに目を通してもらい、必要に応じて追加の説明を行うほか、質問に答えている。保護者同士が交流し、その後の関わりのきっかけとなるよう、自己紹介や家庭で起きたニュースなどを伝え合う時間も設けている。保育参加は保護者に子どもの日常の生活や遊びを体験してもらい、子どもの育ちを共有し、園の保育を伝える機会となっている。 「あかねカフェ」や「CAP講座」など、保護者が交流し、学ぶ機会を設けている 保護者のリラックスや交流の機会として「あかねカフェ」を実施しており、お迎え前にカフェスペースで15分を目安にコーヒーとおやつを提供し、さまざまな育児に関する情報交換や雑談が行われている。コロナ禍以後中止していたが、昨年度より再開し、今年度は年度後半に2回を予定している。講師を招き、5歳児の保護者を対象に行う「CAP講座」では、大人による子どもへの暴力の防止に向けて、大人としてできることや、被害を受けた子どもへの早急な対応を、ロールプレイを交えながら学ぶほか、相談先や関連図書の紹介も行っている。		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
地域の豊かな自然環境を活用した活動や、地域の方とのふれ合いの機会を設けている 周辺の自然豊かな環境を活かし、目的等に応じてさまざまな公園で遊んでおり、季節を感じたり、自然の不思議を見つけたりするほか、道行く人との交流や公の場でのルールやマナーを学ぶ機会にもなっている。また、地域の中で地元の人たちに見守られながら、地域の子として育ててゆけるよう、さまざまな方との関わりが持たれている。農園の地主さんや、庭でミカン狩りをさせてくれる方と交流するほか、苗や種を買いに農協に出かけている。ミカン狩りでは、子どもたちは昔ながらの酸味のあるミカンを味わう経験をしている。 自立支援センターとの交流を通じて、子どもたちが社会の多様性を体験している 近隣の自立支援センターとの交流が持たれており、年長児が利用者とともにゲームをしたり、車椅子を押したり、乗ったりする体験をしている。この取組にあたり、センターの職員との打ち合わせでは、障害のある方たちとの関わりに、子どもたちが心の壁を作ってしまうよう、子どもたちの素直な感想や発言を、大人の判断で制止しないことを申し合わせている。また職員や卒園児保護者など、大人が得意を活かして行う「木の実の会」は、人形劇や体操・音楽など多彩な内容で行われており、子どもたちの新しい体験の機会となっている。 さまざまな人との交流や社会資源を活用した体験の機会が設けられている 元職員や元保護者の方がボランティアで行ってくれている「おはなしのろうそく」ではお話を聴き、卒園児も招いて行う「親子であそぼう会」では、保護者と子どもと一緒にふれ合い遊びなどを楽しんでいる。職場体験や保育士養成校の学生の実習も受け入れており、生活や保育をともにする中で、子どもたちとの交流が図られている。また社会資源を活用した取組も行われており、園から徒歩圏内にある美術館のほか、都内のおもちゃ美術館や高尾山、観劇会などに出かけており、子どもたちの好奇心を広げたり、学びへの意欲を高めたりする機会となっている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	新旧の各園舎で、地域の親子が立ち寄り、楽しく過ごせる場を積極的に提供している	
内容①	新旧の各園舎で子育てひろば事業を展開している。園舎1階のカフェスペース風に設えられた「ひだまり」、改装された旧園舎2階の「あおいとり」の2拠点で、それぞれ子育てや子どもの発達などに関する豊かな知見と経験を持つ専任の職員を配置し、子育て家庭の相談・交流や、身近な素材を用いた親子での「作りもの」体験、砂場の開放など、地域の親子が気軽に立ち寄り、楽しく過ごすことのできる場を提供している。さらにこれらに加え、保育所体験や産前産後世帯向けの育児講座も随時実施するなど、園・法人の資源を積極的に地域へ還元している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル②	保健・安全教育が、子どもが主体的に環境や遊びから学ぶことを大切に行われている	
内容②	子どもが主体的に環境や遊びから学ぶことを大切に考え、自分の身体や安全を自分で守ることのできる意識や行動を身につけられるよう、保健指導・安全教育を実施している。手洗いや歯磨き、咳エチケット、はさみなどの道具の使い方、避難訓練など、生活習慣や危険を避ける行動等をその理由とともに知るほか、日々の暮らしの中では自分で気づいて行動に移したり、体験から危険に気づけたりできるよう、保育者は子どもを指導するのではなく、個々の育ちを理解してその過程で必要なことを見出そうとする視点を持ち、声かけや問いかけを行うよう努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	園と家庭が持ち味を活かしながら、ともに子どもを育て、育ち合うことを目指している	
内容③	保育園の特徴として「子どもの24時間をつなげましょう」や「共に育ち合いましょう」を掲げ、園と家庭の持ち味を活かし、ともに子どもを育て、育ち合うことを目指している。日々の対話や連絡帳のやり取りから、子どもの情報を共有し、クラス懇談会や保育参加、「親子であそぼう会」等を通じて、子どもの成長を伝えている。また「あかねカフェ」を再開し、保護者との懇談の場とするほか、子どもへの暴力を防止するための講座を、保護者も参加できるようにして職員と一緒に学ぶなど、多様な機会を設けて保護者との共通理解を深めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	毎日の食事は、季節感が感じられ、安全にも配慮した食材の活用や、ゆったり楽しい雰囲気の中で進められる工夫のもとで提供されている
	内容	四季が感じ取れる旬の食材や国産の安全な野菜を中心に、肉類は飼育過程の飼料を明示してあるものを活用するなど、安全な食材を意識した食事を提供している。乳児は少人数で一人ひとりの子どもの進み具合に合わせ、ゆったり食べられる雰囲気を大切にしており、幼児はランチルームで異年齢の小グループの子どもたちが会話を楽しみながら、食べる意欲を持って食を進めている。また行事・季節ごとのメニューを採り入れ、盛りつけを工夫したり、器具等を用いた多種多様なクッキングに取り組む機会も設けるなど、食を身近に感じ、食べる意欲を高めている。
2	タイトル	一人ひとりの遊びや興味、発達状況を詳細に確認・共有して適切な援助を検討し、個々を尊重した丁寧な支援へとつなげている
	内容	毎月のクラスごとの会議や日々の子どもへの関わりなどにより、一人ひとりの遊びへの興味やさまざまな発達の状況を確認しており、個別の適切な援助や遊びの提供、環境構成の工夫に反映させている。また年度末には現在の子どもの姿から、次年度へ向けての目標や生活・遊びでの見通し等を引き継ぐなど、育ちの連続性のもとで子ども一人ひとりを尊重し、丁寧な支援へとつなげている。幼児は異年齢で過ごしており、さまざまな活動を保育の中で採り入れることで、子どもたちが年齢の違いによらず学び合い、ともに経験を積むことができるようにしている。
3	タイトル	行事においても子どもたちの意欲や主体的な発想を活かし、仲間同士の関わりや多様な体験、さまざまな心の成長を支援している
	内容	行事は日常の保育との連続性を持たせることを大切にしている。子どもたちが主体となって活動できるようにするために、子ども同士で相談したり、子どもの意見に保育者からの大人の発想を加えるなどして話し合いを重ねることで、内容を深めている。5歳児の「お泊まり会」では過ごし方や食事作りなどのイメージを共有し合い、役割分担をしながら、協力して食事を作り上げる楽しさを味わい、夜の暗闇探検では子ども同士で頼り頼りながら進もうとする勇気や挑戦意欲など、仲間とともに力を合わせる中で、協調性や達成感などの心の成長が促されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	手引書類の適時の改正とさらなる活用に向け、ICTツールの活用も含めた方策の検討が始まっており、今後に期待が寄せられる
	内容	保育実践に必要な知識や考え方、手順等を記載する「保育基本モデル」、非常時の対応に関する各種マニュアル、「入園のしおり」等に、業務の標準が示されており、現場の必要に応じたマニュアルやチェックリストも活用されている。これらは分野が多岐にわたるとともに、新旧のものが混在し、量も豊富であるがために、適時適切な改正・更新、職員への周知とさらなる活用への意識啓発等が昨今の課題となっている。方策の一つとしてICTツールの活用が検討され、利便性・検索性の向上を目指しており、今後の成果への結実に期待が寄せられる。
2	タイトル	大切にしている組織の総意のもとでの園運営の基盤として、職員集団としての同僚性をさらに高め、共通理解を深めたいと考えている
	内容	職員自己評価では、同僚性や労働環境の向上などについて、現場から課題が示されている。経営層は寄せられた声を真摯に受けとめつつ、組織の心理的安全性をより高め、会議等での話し合いや個別の対話による各人の意向の把握を通じ、組織としての人のつながりを、縦横ともにより深めたいと考えている。また職業観・保育観やいわゆる「常識」が多様化し、世代間でも異なる中で、園として大切にしている、職員の能動的な関与のもとでの園運営の前提として、働く環境に関する方針を含め、法人の考え方をより的確に言語化し、現場に伝えていくことも期待したい。
3	タイトル	家庭での虐待等の防止や、生活の中での子どものプライベートゾーンに関する考え方等について、さらなる研鑽・検討を期待したい
	内容	職員が日頃の子どもへの関わりを振り返り、話し合う中で認識の共有を図るなど、子どもの人権・尊厳の尊重に努めており、家庭での育児困難や虐待の早期発見・防止についても、研鑽の機会を設けることが期待される。また、訪問調査時には子どもたちが水遊びを楽しんでおり、ネットやタープで日差しや園外の視線を遮る配慮もなされていたが、子どもの着衣のあり方等については、近年のプライベートゾーンに関する考え方、発達の過程における羞恥心の育みや芽生えなどへの配慮に照らし、組織としてさらに思索を深めることも、意義あることかと思われる。